



TITLE:

[共同利用・国際協同観測・研究交流]研究会の開催

AUTHOR(S):

CITATION:

[共同利用・国際協同観測・研究交流]研究会の開催. 京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告 2006, 2005年(平成17年): 52-54

ISSUE DATE:

2006-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172359>

RIGHT:

8.5 研究会の開催

8.5.1 The 6th Solar-B Science Meeting

主催: 附属天文台

共催: 21 世紀 COE「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」、
京大基礎物理学研究所、名大太陽地球環境研究所

日程: 2005 年 11 月 8 日から 11 日

場所: 京都市 国際交流会館

2006 年 9 月に次期太陽観測衛星 Solar-B がわが国の JAXA 宇宙科学本部より打ち上げられる予定である。Solar-B は、1991 年に打ち上げられ大成功をおさめたわが国の太陽観測衛星「ようこう」(Solar-A) の後継機であり、世界で最初のスペースからのベクトル磁場観測、最高空間分解能の軟 X 線望遠鏡、最高精度の極紫外線撮像型分光装置などを搭載することにより、コロナ加熱メカニズムやリコネクションなどの磁気プラズマ素過程を解明することを目的としている。観測装置開発、衛星開発は順調に進み、打ち上げを真近に控え、科学目的をしっかりと吟味した上での観測・運用プログラムの策定、解析ソフトの整備、などが緊急に必要なフェーズに入ってきている。

本国際会議は、このような状況をふまえ、Solar-B で推進すべき具体的研究課題、それに関連する運用・観測プログラム、解析ソフトなどを議論することを目的として開催された。Solar-B 衛星は世界の太陽物理学者から待ち望まれており、一方、京大は Solar-B 衛星から大きな科学成果を挙げうるグループであると期待されており、本国際会議はこのような世界の太陽物理学者の京大への期待を反映して京都で開催されることになった。

参加者数は当初の予想の 100 人を大幅に上回る 140 人にも達し、外国人参加者数 (75 人) が日本人参加者数 (65 人) を上回った。日本で開催の国際会議で外国人参加者の方が多くなるのは異例であり、本会議の国際性の高さを示すものである。会議では、上記の目的を達成するために、黒点、磁束管、ダイナモ、彩層加熱、コロナ加熱、磁気リコネクション、フレア、コロナ質量放出、太陽風などのテーマに関して研究の現状と今後の課題に関するレビュー講演を中心に、質疑応答に重点を置いた。参加者の多くからは、素晴らしい会議だった、近年これほどおもしろく有意義な会議はなかった、などと高い評価を受けた。



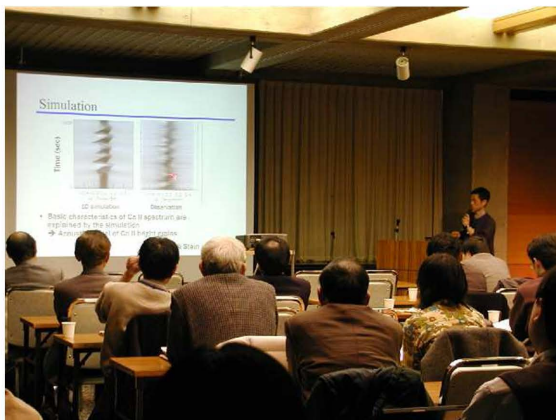
(柴田)

8.5.2 Solar-B と地上太陽観測の連携—太陽研究の新展開に向けて—

2006年2月6日から8日にかけて、太陽研究会「Solar-B と地上太陽観測の連携—太陽研究の新展開に向けて—」が、附属天文台の主催、名古屋大学太陽地球環境研究所と国立天文台太陽天体プラズマ研究系の共催により、京大会館を会場に開催された。研究会の主旨は、2006年9月打ち上げが迫った SOLAR-B 衛星による新しい太陽研究にむけ、国内の太陽物理研究者を一堂に会し、新時代の研究テーマに関する議論を深めることである。

研究会は、「強いフレア現象」、「コロナ-彩層加熱と小規模爆発現象」、「飛騨天文台、乗鞍コロナ観測所ユーザースミューティング」の3セッションから構成され、3日間を通して約100名の参加者があった。合計33件の口頭講演はいずれも、観測および理論の観点から、最新の研究成果をよくまとめた上で、新時代になすべき研究の指針を明確に示すものであった。日本語の研究会ということもあり、活発な質疑応答がなされ、会場は終始熱気に包まれていた。また、15件のポスター講演もなされ、ポスター前で活発な議論がなされた。

2日目のセッション終了後には懇親会が開催された。本研究会は、黒河宏企教授の退職記念研究会もかねており、セッション中には語り尽くせなかった研究の話題のみならず、黒河先生の昔話などにも花が咲き、多いに盛況であった。



(左):セッション風景



(右):懇親会風景

(永田)

8.5.3 その他の天文台関連研究会

1. 地球惑星科学関連学会合同大会「宇宙天気セッション」
2005年5月23日-24日 (幕張: 千葉) 世話人 (柴田 一成)
2. Ultrarelativistic Jets in Astrophysics,
2005年7月11日-15日 (Banff, Alberta, Canada) SOC (柴田 一成)
3. IAGA 2005 Scientific Assembly, session GAIV01
"The Sun: Its interior, atmosphere and wind"
2005年7月27日-28日 (Toulouse, France) session co-convener (柴田 一成)
4. Active OB Stars: Laboratories for Stellar & Circumstellar Physics
2005年8月29日-9月2日 (札幌) LOC (野上 大作)

5. CAWSES workshop
2005 年 9 月 12 日–13 日 (名古屋大学) 世話人 (柴田 一成)
6. SMART データ解析ワークショップ
2005 年 9 月 16 日–20 日 (飛騨天文台 主催)
7. 研究会 「惑星物理学の新展開と飛騨天文台 65 cm 屈折望遠鏡による観測的研究」
2005 年 9 月 20 日–21 日 (飛騨天文台 主催)
8. CAWSES space weather workshop,
2005 年 12 月 10 日–12 日 (Stanford-U., USA) SOC co-chair (柴田 一成)
9. IAU Symposium No.233 ”Solar Activity and its Magnetic Origin”
2006 年 3 月 31 日–4 月 4 日 (Cairo, Egypt) SOC (柴田 一成)

8.6 各種委員

学内

1. 21 世紀 COE 広報委員会 委員長: 柴田 一成
2. 京都大学国際交流委員会 委員: 黒河 宏企
3. 理学部将来計画委員会 委員: 柴田 一成
4. 理学部自己点検・評価小委員会 委員: 柴田 一成
5. 理学部事務組織・研究支援体制検討委員会 委員: 柴田 一成
6. 理学部国際社会交流委員会 委員: 黒河 宏企
7. 理学部教育委員会 委員: 北井 礼三郎
8. 理学部ネットワーク計算機委員会 委員: 野上 大作
9. 理学部広報委員会 委員: 上野 悟
10. 理学部 Web 管理小委員会 委員: 上野 悟

学外

1. 天文学会 評議員: 柴田 一成
2. 物理学会 領域 2 (プラズマ物理) アドバイザリーボード 委員: 柴田 一成
3. 学術会議 天文学研究連絡委員会 委員: 柴田 一成
4. 学術会議 天文学国際共同観測専門委員会 委員: 柴田 一成
5. 学術会議 SCOSTEP/STPP 専門委員会 委員: 柴田 一成
6. 国立天文台 研究計画委員会 委員: 柴田 一成
7. 国立天文台 運営会議 委員: 黒河 宏企
8. 国立天文台 太陽・天体プラズマ専門委員会 委員: 上野 悟
9. 名古屋大学 太陽地球環境研究所 共同利用委員会 委員: 柴田 一成
10. 名古屋大学 太陽地球環境研究所 ジオスペース研究運営委員会 委員: 柴田 一成
11. ITBL 技術普及・利用動向調査委員会
光子・プラズマ・流体科学分科会 委員: 柴田 一成
12. 学術振興会 平成 18 年度特別研究員等審査会 専門委員: 柴田 一成
13. SCOSTEP CAWSES theme 2 (space weather) co-chair: 柴田 一成
14. 京都市青少年科学センター学術顧問: 黒河 宏企
15. Solar-B project scientist: 柴田 一成